

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2	学年（コース）	1 学年
使用教科書		数研出版『現代の国語』					
副教材等		第一学習社『新版7訂新訂総合国語便覧インストール版』 尚文出版『大学入試に出た核心漢字2500+語彙1000』					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

2 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) ことばが持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>進学希望者が大半であるため、</p> <p>① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指します。</p> <p>② 文章を的確に理解することにより、自分の考えを深めることを目指します。</p> <p>③ 自身の考えを適切かつ効果的に表現することで、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実社会で必要な国語の知識や技能を身に付けている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・学習到達度確認問題 ・課題考査 ・提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートや、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。

内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	「読む」と「書く」	2 「C読むこと」	書けない日々	・文章中の表現について、文章の論理の展開を踏まえて説明する。 ・「書く」ことと「読む」ことの関係性について考える。 ・読書の意義と効用を理解する。	2	ワークシート （記述の確認） ワークシート （記述の点検） 要約文 （記述の分析）
	社会と文化	3 「C読むこと」	水の東西	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開を的確に捉え、要点を把握する。 ・要約文を各自書き、互いの要約を読み比べる。	3	ワークシート （記述の確認） ワークシート （記述の点検） 要約文 （記述の分析）
		1 「A話すこと・聞くこと」	文化	・自文化とグローバリゼーションという観点から、実社会の中から適切な話題を決め、話し合う。	1	発表や意見交換の様子 （行動の確認）

5	新しい視点	3 「C読むこと」	「わらしべ長者」 の経済学	<ul style="list-style-type: none"> 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要旨や要点を把握する。 	3	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 要約文 (記述の分析)
		1 「A話すこと・ 聞くこと」	情報とメディア	<ul style="list-style-type: none"> 実社会の中から話題を決め、それについてマスメディアから発信された情報と個人から発信された情報を比較し、両者の違いについて話し合う。 	1	発表や意見交換の様子 (行動の確認)
6	ことばの働き	3 「C読むこと」	知識のシステム をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 文章内容に関連した具体例を探し、その内容を簡潔にまとめる。 要約文を各自書き、互いの要約を読み比べる。 	3	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 要約文 (記述の分析)
		1 「A話すこと・ 聞くこと」	どこにも蝶など いない	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の意見や参考資料をもとに実社会の問題について考察し、適切に説明する。 テーマに関連する書籍を読むなど読書の意義と効用について理解を深める。 	1	発表や意見交換の様子 (行動の確認)
	環境と科学	3 「C読むこと」	科学コミュニケ ーション	<ul style="list-style-type: none"> 文章の種類を踏まえて内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨を把握する。 個別の情報と一般化された情報との関係について理解する。 	3	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 要約文 (記述の分析)
		2 「A話すこと・ 聞くこと」	環境問題のこれ から	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題の国際的な取り決めや日本の法律・条例を調べ発表する。 	2	発表や意見交換の様子 (行動の確認)
7	人間と時間	4 「C読むこと」	時間と自由の関係 について	<ul style="list-style-type: none"> 文章の種類を踏まえて内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨を把握する。 実社会との関わりを考えるための読者の意義と効用について考える。 	4	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 要約文 (記述の分析)
		2 「A話すこと・ 聞くこと」	近代と時間の関係	<ul style="list-style-type: none"> 時間に関することわざを選び、その内容が現代社会でもあてはまるかを検討した上で、自分の考えを根拠とともに述べる。 	2	発表や意見交換の様子 (行動の確認)
8 9	認識の枠組み	3 「C読むこと」	他者を理解するとい うこと	<ul style="list-style-type: none"> 文章の種類を踏まえて内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨を把握する。 要約文を各自書き、互いの要約を読み比べる。 	3	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) 要約文 (記述の分析)

		2 「A話すこと・ 聞くこと」	自己と他者の理解 とは	・他者との相互理解のためにできることについて、具体的な事例を挙げて話し合い、発表する。	2	発表や意見交換の 様子 (行動の確認)
	問題を提起する	3 「B書くこと」	感情暴走社会の由来	・文章中の表現について、文章の論理の展開を捉えて説明する。 ・文章内容を踏まえて自分で問題を提起し、表現を工夫して文章を書く。	3	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) レポート (記述の点検)
10	対比する	3 「B書くこと」	デジタルメディア 時代の複製	・筆者の考えに対する自分の意見を、構成を工夫して文章にまとめる。	3	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検)
	賛否を述べる	2 「A話すこと・ 聞くこと」	命は誰のものなのか	・終末期医療の問題について、その対策を筆者の考えを踏まえた上で話し合い、発表する。	2	発表や意見交換の 様子 (行動の確認)
11	解釈を述べる	4 「B書くこと」	事実なのか考えなのか	・言葉や表現が読み手に与える印象を考えながら、条件に沿って文章を書く。	4	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検)
	具体例を示す	4 「B書くこと」	動的平衡の回復	・個別の情報と一般化された情報との関係について理解する。 ・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性を吟味して、伝えたいことを明確にまとめる。	4	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) レポート (記述の点検)
12 1	意見を述べる	4 「B書くこと」	無痛化する社会のゆくえ	・与えられたテーマについて、二つの文章をもとに考察し、適切に引用しながら自分の意見を文章にまとめる。	4	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検)
	関連づける	4 「B書くこと」	絵を前に思いをめぐらす	・自分の考えが的確に伝わるように、適切に引用するなど、説明の仕方を考えて書く。	4	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) レポート (記述の点検)
		2 「A話すこと・ 聞くこと」	芸術の価値とは	・芸術作品を選び、自分の解釈を発表する。	2	発表や意見交換の 様子 (行動の確認)
2	実用の文章	2 「A話すこと・ 聞くこと」	課題を発見し解決策を発表する	・集めた情報と検討内容を資料にまとめ、発表する。	2	発表や意見交換の 様子 (行動の確認)
	話し言葉の技術	2 「A話すこと・ 聞くこと」	情報の聞き取り方 説得力のある話し方	・大意を聞き取る (スキミング)、具体的な情報を聞き取る (スキヤニング) を練習する。 ・声・視線・構成を工夫してスピーチを練習する。	2	発表や意見交換の 様子 (行動の確認)

3	書き言葉の技術	4 「B書くこと」	文章構造を理解する 比較する 論証する 意見文を書く	・文と文、段落と段落の関係を知る。 ・比較によって仮説を立てる。 ・類推によって新しい視点を得る。 ・論証の方法を確認する。 ・引用や推敲のしかたについて理解し、具体的に説得力のある文章で意見を述べる。	4	ワークシート (記述の確認) ワークシート (記述の点検) レポート (記述の点検)
---	---------	--------------	-------------------------------------	---	---	---

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 20時間	B「書くこと」 26時間	C「読むこと」 18時間
-----------------	----------------------	-----------------	-----------------

7 課題・提出物等

- ・およそ週1回のペースで学習到達度確認問題があります。出題範囲は、学年だよりの週末課題号で指示します。
- ・単元に応じて、予習(黙読・疑問点を明らかにしておく・漢字練習・意味調べ等)をしておくことを前提とします。
- ・教材によっては、理解を深めるために電子黒板やタブレットを利用し、主体的・能動的な学びができるような機会を設けます。またタブレットを使用してコメントや解答の提出を求める場合もあります。

8 担当者からの一言

本文をよく読んで予習を行うとともに、社会生活の中で必要な能力を身につけるということを大切にしながら授業に臨みましょう。また、論理的文章読解能力や語彙力の向上を目指し、筆者のものの見方や考え方を理解しながら、自らの考えを自分の言葉で表現することができるように授業に取り組んでいきましょう。

教科	国語	科目	言語文化	単位数	3	学年（コース）	1 学年
使用教科書	数研出版『言語文化』						
副教材等	ベネッセコーポレーション『ベネッセ全訳古語辞典（改訂版）』、第一学習社『改訂三版完全マスター古典文法』、第一学習社『新版完全マスター古典文法準拠ノート基礎固め』、桐原書店『漢文必携五訂版』、桐原書店『漢文必携チェックノート基本編五訂版』、尚文出版『新版理解を深める核心古文単語 351』、第一学習社『新版七訂新訂総合国語便覧（イストール版）』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、その文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して語感を磨くとともに、それを使って自分の考えや思いを適切に表現することを目指します。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文法のきまりや語句、古典特有の表現などについて理解し、それを踏まえた上で本文を読み味わうことができるようになることを目指します。 ・様々な時代に書かれた散文や韻文を読み味わうことを通して、表現や構成の特色や文化的背景を踏まえた上で、そこに表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し理解することを目指します。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「読むこと」や「書くこと」を通して、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。また、進んで読書に親しみ、我が国固有の文化や表現を理解しようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 学習到達度確認問題、各種考査などの分析 授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ワークシート、提出物などの内容の確認などから、評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習到達度確認問題、各種考査などの分析 授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ノート、ワークシート、レポート、提出物などの内容の確認や記述の分析などから、評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ノート、ワークシート、レポート、提出物などの内容の確認や記述の分析などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	古文：説話	8 C「読むこと」 【古典】	『宇治拾遺物語』	<ul style="list-style-type: none"> 文語のきまりを理解し、古文に親しむ。 歴史的仮名遣いの読み方を理解し、古文を音読する。 古語の品詞や活用について理解し、古語辞典の引き方に慣れる。 古文特有の表現や古典常識・文学史について、辞書や資料を活用しながら理解する。 説話のおもしろさを味わい、登場人物の心情の変化と結末の描写について考える。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い、音読、発表の様子 (行動の確認) ノートの整理、ワークシート、振り返りシート (記述の確認)
5	近代小説（一）	7 C「読むこと」 【近代以降の文章】 2 B「書くこと」	「羅生門」	<ul style="list-style-type: none"> 叙述や文脈に基づいて文章を読み、そこに表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 結末部の改稿による作品の印象の変化をまとめ、グループで話し合う。 「羅生門」と『今昔物語集』の差異を比較レポートにまとめる。 	7 2	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い、音読、発表の様子 (行動の確認) ノートの整理、ワークシート、振り返りシート (記述の確認)
6	入門 随筆（一）	2 C「読むこと」 【古典】 5	「入門一」 「入門二」 『徒然草』	<ul style="list-style-type: none"> 読解に必要な漢文のきまりや表現を理解する。 読解に必要な文語のきまりや表現を理解する。 作品や文章に表れているものの見方や感じ 	2 5	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い、音読、発表の様子 (行動の確認) ノートの整理、ワークシート、振り返りシ

		C「読むこと」 【古典】		方、考え方を捉え、内容を解釈する。		ト (記述の確認)
7	故事	5 C「読むこと」 【古典】 1 B「書くこと」	「漁夫の利」・「矛盾」・「狐借虎威」・	・読解に必要な作品の歴史的・文化的背景などを理解する。 ・作品の成立背景を踏まえて内容を解釈する。 ・故事成語の用例の調査を行い、レポートを作成する。	5 1	・話し合い、音読、発表の様子 (行動の確認) ・ノートの整理、ワークシート、振り返りシート (記述の確認)
8	戦争小説 物語	5 C「読むこと」 【近代以降の文章】 1 B「書くこと」 4 C「読むこと」 【古典】	「沖縄の手記から」 『竹取物語』	・作品の成立背景を踏まえて内容を理解する。 ・近現代に書かれた戦争文学を積極的に調査し、学習課題にそって発表する。また、その成果をレポートにまとめる。 ・作品の成立背景や、文化的背景を踏まえて内容を解釈する。	5 1 4	・話し合い、音読、発表の様子 (行動の確認) ・ノートの整理、ワークシート、振り返りシート (記述の確認) ・レポート
9	歌物語	6 C「読むこと」 【古典】 2 B「書くこと」	『伊勢物語』 『大和物語』	・古典特有の韻文の表現について理解する。 ・文章の種類や成立した背景を踏まえて、内容や構成、表現の特色などを的確に捉える。 ・他の作品と比較しながら、批評文を作成する。	6 2	・話し合い、音読、発表の様子 (行動の確認) ・ノートの整理、ワークシート、振り返りシート (記述の確認) ・レポート
10	近代小説(二) 史伝	6 C「読むこと」 【近代以降の文章】 1 B「書くこと」 4 C「読むこと」 【古典】	「城の崎にて」 『鶏口牛後』	・叙述や文脈に基づいて文章を読み、そこに表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品内容を踏まえて、自分の考えを学習課題に照らし合わせてまとめる。 ・作品の歴史的・文化的背景などを理解する。 ・作品の成立背景を踏まえて内容を解釈する。	6 1 4	・話し合い、音読、発表の様子 (行動の確認) ・ノートの整理、ワークシート、振り返りシート (記述の確認) ・レポート
11	文章 随筆(二)	3 C「読むこと」 【古典】 6 C「読むこと」 【古典】	『雑記』 『枕草子』	・読解に必要な作品の歴史的・文化的背景などを理解する。 ・読解に必要な文語のきまりや表現、作品の時代的文化的背景を理解する。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。	3 6	・話し合い、音読、発表の様子 (行動の確認) ・ノートの整理、ワークシート、振り返りシート (記述の確認)

12	日記文学 漢詩	3 C「読むこと」 【古典】 4 C「読むこと」 【古典】	『土佐日記』 「中国の詩」・「日本の詩」	<ul style="list-style-type: none"> 作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 解釈に必要な漢詩のきまりや表現を理解する。 作品の成立背景を踏まえて内容を解釈する。 	3 4	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い、音読、発表の様子 (行動の確認) ノートの整理、ワークシート、振り返りシート (記述の確認)
1	近代小説(三)	5 C「読むこと」 【近代以降の文章】 2 B「書くこと」	「山月記」	<ul style="list-style-type: none"> 叙述や文脈に基づいて文章を読み、そこに表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 作品の設定や場面や人物によって生じる効果、翻案の方法など、自分で課題を設定しレポートを作成する。 	5 2	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い、音読、発表の様子 (行動の確認) ノートの整理、ワークシート、振り返りシート (記述の確認) レポート
2	和歌	5 C「読むこと」 【古典】 2 B「書くこと」	「万葉集」・「古今和歌集」・「新古今和歌集」 『英語で読む百人一首』	<ul style="list-style-type: none"> 読解に必要な古典特有の韻文の表現について理解する。 文章の種類や成立した背景を踏まえて、内容や表現の特色などを的確に捉える。 英訳された和歌を読解し、日本古典の魅力や翻訳の工夫についてレポートを作成する。 	5 2	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い、音読、発表の様子 (行動の確認) ノートの整理、ワークシート、振り返りシート (記述の確認) レポート
3	詩歌	5 C「読むこと」 【近代以降の文章】 2 B「書くこと」	「サーカス」・「I was born」 ・短歌・俳句	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の言語文化に必要な語句の量を増やし、その理解を深めるとともに文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 好きな作品を選び、鑑賞文を作成する。 俳句あるいは短歌を作成し、発表する。 	5 2	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い、音読、発表の様子 (行動の確認) ノートの整理、ワークシート、振り返りシート (記述の確認) レポート

計96時間(55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	B「書くこと」 13時間	C「読むこと」【古典】 55時間	C「読むこと」【近代以降の文章】 28時間
-----------------	-----------------	---------------------	--------------------------

7 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> 週末課題を課し、その内容をもとに毎週1回学習到達度確認問題を行います。課題は提出を原則とします。範囲は学年だよりで指示します。 長期休業課題を課し、それをもとに課題考査を行います。課題は提出を原則とします。また定期考査を行います。それぞれ範囲は別途指示します。 単元によって課題としてレポート等の提出などを課します。
--

8 担当者からの一言

近現代の小説も扱いますが、古典が中心となります。中学から学んできた古典文法や古文単語、漢文句形などの知識を駆使し、先人たちの知恵や文化により深く触れていきましょう。また、自分の力で文章を読むことを意識した学習を心掛けましょう。学べば学ぶほどあなたの世界が広がるはずです。

教科	地歴公民	科目	地理総合	単位数	2単位	学年（コース）	1学年
使用教科書	高等学校 新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）						
副教材等	24 サクシード地理（啓隆社） 新詳地理資料COMPLETE（帝国書院）						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

2 学習目標

<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。</p>

3 指導の重点

- ①授業に集中すること。「どこで」「なぜ」という問題意識を常にもちながら、授業を受ける。こうした姿勢が、地理的な思考能力の向上につながる。
- ②知識を定着させる重要な手段が、週末課題と小テストである。この2つに真剣に取り組み、短いスパンで確実な知識定着を目指す。
- ③各地球規模の課題を考察し学ぶことで、諸課題を関連付けて大観し理解する能力を育てる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地図や統計、画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択し、読み取った図表にまとめたりしようとしている。	現代世界の地理的事象から課題を見出し、それを系統地理的・地誌的に考察し、公正に判断・表現しようとしている。	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し諸課題を関連付けて大観しようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・地形図やグラフ、統計資料の分析 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえて、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、グループワークでの取り組みや発表などの取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえて、 ・授業中の発言、グループワークでの取り組みや発表などの取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。

内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	地図と地理情報システム	データや地図を正確に読み解く 5時間	地球上の位置と時差 結び付きを深める現代世界	・現代世界の地図やその種類について理解する。 ・地形図の仕組みや読図の仕方を理解する。 ・地理情報システム (GIS) のしくみやこれを支える技術、活用場面について理解する。	5	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
5	グローバル化する世界 生活文化の多様性と国際理解 世界の地形と人々の生活	他の国の文化を理解する 5時間	国際理解と国際協力 世界の地形と人々の生活	・地形の分布や成因、基本的な形成や仕組みについて理解する。	5	前期中間テスト 学習到達度確認テスト 作業プリントの確認

6	世界の気候と人々の生活	気候の成り立ちを理解する 6時間	気温・降水と人々の生活 大気大循環と人々の生活 世界の植生と気候区分	<ul style="list-style-type: none"> 世界の気候について理解する。 日本の自然の特徴や災害について理解する。 	6	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
7 8	太平洋の島々での生活 モンスーン地域での生活 世界の言語・宗教 イスラームと人々の生活 ヒンドゥー教と人々の生活	気候と文化の結びつきを理解する 7時間	各所地域の人々の生活文化 言語・宗教と人々の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> 各国及び地域の地誌的な特色を理解する。 世界の言語・宗教による人々の生活を理解する。 	7	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
9	ラテンアメリカの生活文化 アフリカの生活と文化 ロシアの生活と文化	気候と文化の結びつきを理解する 6時間	各所地域の人々の生活文化	<ul style="list-style-type: none"> 各国及び地域の地誌的な特色を理解する。 世界の言語・宗教による人々の生活を理解する。 	6	前期期末テスト 学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
10	アメリカの生活と文化 東アジアの生活と文化 ヨーロッパの生活と文化	気候と文化の結びつきを理解する 7時間	各所地域の人々の生活文化	<ul style="list-style-type: none"> 各国及び地域の地誌的な特色を理解する。 世界の言語・宗教による人々の生活を理解する。 	7	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
11	地球環境問題 人口問題	現在の諸課題を理解する 6時間	地球的課題と国際協力	<ul style="list-style-type: none"> 世界の人口分布や動態、転換について理解する。 先進国と発展途上国の人口問題について事例をもとに考察し、理解する。 	6	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
12	都市・居住問題 自然環境と防災	住居と防災について理解する 6時間	地域で異なる都市・住居問題への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 村落や都市の発達や地域的な違いについて理解する。 都市・居住問題について事例をもとに考察し、理解する。 地域で異なる気象災害、都市化による水害の変化について理解しており、地理的技能を身に付けている。 	6	後期中間テスト 学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
1	日本の自然環境 地震・津波と防災	日本の災害と防災に理解する	地震・津波による災害 被災地の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 日本の地形・気候と災害の関りを関連付けて理解する。 火山・地震の被害について理解しており、地理的技能を身に付け 	6	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認

		6時間		ている。		
2	気象災害と防災	地域で異なる災害を理解する 6時間	気象災害への取り組み	・地域で異なる気象災害を理解しており地理的技能を身に付けている。	6	後期期末テスト 学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
3	生活圏の調査と地域の展望	身近な地域について探求する 4時間	地理的な課題と地域調査	・地理的な課題の解決に向けての探究、地域調査の「問い」の設定について理解している。 ・現地調査の方法について理解している。 ・調査結果の分析と仮説の検証、調査結果のまとめ・発表の方法について理解している。	4	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認

計64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・週末課題が行う時があります。各範囲の課題を提出期限に必ず提出すること。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。(ワーク、模試の過去問題など)

8 担当者からの一言

- ①地理は復習重視の科目である。授業後すぐにノート・プリントの見直しや要点ノート・資料集を使った復習を行うと効果的である。そのためには何よりも授業への集中が大前提である。
- ②新聞やニュースは地理ネタの宝庫である。世界の今に興味をもち、なぜそうなっているのかを考えてみるのが、日々の授業への関心を高め、知識を増やすことにつながる。
- ③模試は、受けるたびに必ず復習する。授業で学んだ知識が本当に活用できるのか、新たな視点や最新の統計を用いた出題にはどのようなものがあるのかなど、模試から学べることは実に多い。

(担当：氏名) 三浦 俊亮

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2	学年（コース）	1 学年
使用教科書	山川出版社『歴史総合 近代から現代へ』						
副教材等	第一学習社 ダイアログ歴史総合						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

2 学習目標

<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

3 指導の重点

- ①日本と世界の歴史について、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求・解決できる力を養うことを目指します。
- ②学習到達度確認テストで歴史事象に関する基礎知識の定着を図ります。また、授業を通して習得した歴史的思考力、判断力を問題演習でさらに深めることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、学習到達度確認テスト ・課題などの提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題などの提出物 ・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・課題などの提出物 ・授業態度 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	結びつく世界	3・アジア諸地域の繁栄と日本 3・ヨーロッパ人の海外進出	世界史 1	アジアの繁栄とヨーロッパにおける主権国家の形成、ヨーロッパ人の海外進出について概観する。	6	学習到達度確認テスト、作業プリント
5	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	3・ヨーロッパ経済の動向と産業革命 3・アメリカ独立革命とフランス革命	世界史 2	ヨーロッパにおける産業革命やアメリカ独立戦争・フランス革命など19世紀の欧米について理解する。	6	学習到達度確認テスト、作業プリント
6	明治維新と日本の立憲体制 前期中間考査	3・明治維新と諸改革 3・自由民権運動と立憲体制	世界史 3	日本の明治維新と明治初期の対外関係、自由民権運動と立憲制について理解する。	6	前期中間考査、学習到達度確認テスト

7	帝国主義の展開とアジア	3・条約改正と日清戦争 3・帝国主義と列強の展開	条約改正と日清戦争、日本の産業革命と教育について理解し、帝国主義と世界分割について考察する。	6	学習到達度確認テスト、作業プリント
8	第一次世界大戦と大衆社会	3・第一次世界大戦とロシア革命 2・国際平和と安全保障	第一次世界大戦とロシア革命とその後の国際平和と安全保障について理解する。	5	学習到達度確認テスト、作業プリント
9	第一次世界大戦と大衆社会 前期期末考査	3・アジア・アフリカ地域の民族運動 3・社会・労働運動	アジア・アフリカの民族運動と大衆消費社会と日本における大衆の政治参加について概観する。	6	前期期末考査、学習到達度確認テスト
10	経済危機と第二次世界大戦	3・世界恐慌の発生と各国の対応 3・ファシズムの台頭	世界恐慌とファシズムの台頭を背景とした満州事変と日中戦争、それに続く太平洋戦争を含めた第二次世界大戦について理解する。	6	学習到達度確認テスト、作業プリント
11	戦後の国際秩序と日本の改革	3・新たな国際秩序と冷戦の始まり 3・アジア諸地域の独立	占領政策と日本の民主化、冷戦の始まりによる占領政策の転換を理解し、アジア諸国の独立についても概観する。	6	学習到達度確認テスト、作業プリント
12	冷戦と世界経済 後期中間考査	3・集団防衛体制と核開発 2・第三世界の連携と試練	米ソ両大国の平和共存と集団防衛体制を概観するとともに、西ヨーロッパの経済復興、第三世界の連携について理解する。	5	後期中間考査、学習到達度確認テスト
1	冷戦と世界経済	3・日本の高度経済成長 2・冷戦構造のゆらぎ	日本の高度経済成長と世界経済の転換、核戦争の恐怖から軍縮への過程を考察する。	5	学習到達度確認テスト、作業プリント
2	グローバル化する世界 後期中間考査	3・冷戦の終結と国際情勢 2・地域紛争の激化	冷戦の終結後の国際情勢、ソ連の崩壊に続く地域紛争の激化について理解する。	5	後期期末考査、学習到達度確認テスト
3	現代の課題 主題学習	3・現代世界の諸課題 2・現代日本の諸課題	現代における世界と日本の諸課題について考察する。学習内容をもとに、自分決めたテーマについて考えをまとめる。	5	学習到達度確認テスト、作業プリント

計 67 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・学習到達度確認テストをおこないます。範囲はテスト前に提示します。
- ・週末課題は、2 日前までには指示します。長期休業中の課題は、別途指示します。

8 担当者からの一言

- ・歴史総合は復習重視の科目である。授業後すぐにノート・プリントの見直しや要点ノート・資料集を使った復習を行うと効果的である。そのためには何よりも授業への集中が大前提である。
- ・新聞やニュースは歴史総合ネタの宝庫である。世界の今に興味をもち、その背景を考えることが、日々の授業への関心を高め、知識を増やすことにつながる。(担当：伊藤一億)

教科	数学	科目	数学I	単位数	3単位	学年 (科)	1学年 (国際文化科・情報科学科)
使用教科書	数研出版『NEXT 数学I』						
副教材等	数研出版『CONNECT 数学I+A』 数研出版『チャート式 解法と演習 数学I+A』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

- ①授業において知識・技能を身に付けるとともに、事象を数学的にとらえ、考察・表現する意欲をもてるよう指導します。
- ②基本的な計算力や技能を身に付けられるように、毎日の授業中、計算練習に取り組みます。また、日々課題・週末課題を設定し、確実な習得を目指します。
- ③学習到達度確認問題で基本的な計算力と技能、表現を習得しているかを確認し、生徒全員がこれらの力を身に付けることを徹底します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な計算能力、知識・技能、問題処理能力を身に付けている。	計算などにより得られたことから、数学的にどのようなことが考えられ、結論づけられるか論理的に思考・判断し、それらを正しく表現できている。	自分の考えを深めようと粘り強く活動するとともに、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、改善したりしようとしている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ 考査 ・ 学習到達度確認問題 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査 ・ 学習到達度確認問題 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 日々課題や週末課題の提出 ・ 振り返りシートなどから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」

で評価します。

6 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4 5	数と式 【単元テスト】		・ 式の計算 ・ 実数 ・ 1次不等式	・ 多項式の四則演算 ・ 実数・根号 ・ 1次不等式 ・ 絶対値	26	学習到達度確認問題 日々課題 考査
6 7 8	2次関数 【前期中間考査】 【単元テスト】		・ 2次関数とグラフ ・ 2次関数の値の変化 ・ 2次関数の決定 ・ 2次方程式と2次不等式	・ 関数とグラフ・2次関数のグラフ ・ 最大・最小 ・ 2次関数の決定 ・ 2次方程式・2次関数のグラフとx軸の位置関係 ・ 2次不等式	28	学習到達度確認問題 日々課題 考査
9 10	【前期期末考査】 三角比		・ 三角比 ・ 三角形への応用	・ 三角比・相互関係 ・ 三角比の拡張 ・ 正弦定理・余弦定理 ・ 面積・空間図形への応用	26	学習到達度確認問題 日々課題 考査

11	データの分析 【後期中間考査】 課題学習		・データの分析 ・代表値 ・四分位数 ・分散・標準偏差 ・変量間の関係 ・仮説検定	16	学習到達度確認問題 日々課題 考査
----	--------------------------------	--	---	----	-------------------------

計 96 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

日々課題 長期休業課題

8 担当者からの一言

- ① 数学において、第一に計算能力が必要です。日々課題を通して計算力や思考力を上げる努力をしましょう。
- ② 授業中に理解できないところは、その場で質問し、曖昧さを残さないようにしましょう。
- ③ 応用力をつけるには、基本的な内容がすべて定着してある必要があります。授業・日々課題で内容を完全に定着させ、学習到達度確認問題でその度合いを計ります。もし不十分なところがあったら、解消会や解消課題の提出で内容の定着を徹底します。

教科	数学・理数	科目	数学Ⅱ(1年)・理数数学Ⅰ	単位数	1単位	学年(科)	1学年 (国際文化科・情報科学科)
使用教科書	数研出版『NEXT 数学Ⅱ』						
副教材等	数研出版『CONNECT 数学Ⅱ+B』 数研出版『チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

2 学習目標

「式と証明」「複素数と方程式」の2単元に取り組む中で、これらの基本的な概念を理解するとともに、事象を数学的に解釈、表現、処理する技能を身に付けられるようにする。

3 指導の重点

- ①授業において知識・技能を身に付けるとともに、事象を数学的にとらえ、考察・表現する意欲をもてるよう指導します。
- ②基本的な計算力や技能を身に付けられるように、毎日の授業中、計算練習に取り組みます。また、日々課題・週末課題を設定し、確実な習得を目指します。
- ④ 学習到達度確認問題で基本的な計算力と技能、表現を習得しているかを確認し、生徒全員がこれらの力を身に付けることを徹底します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な計算能力、知識・技能、問題処理能力を身に付けている。	計算などにより得られたことから、数学的にどのようなことが考えられ、結論づけられるか論理的に思考・判断し、それらを正しく表現できている。	自分の考えを深めようと粘り強く活動している。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ 考査 ・ 学習到達度確認問題 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査 ・ 学習到達度確認問題 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 日々課題の提出 ・ 自主的に取り組んだ問題の提出 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

6 課題・提出物等

日々課題
長期休業課題

7 学習アドバイス

- ① 数学において、第一に計算能力が必要です。日々課題を通して計算力や思考力を上げる努力をしましょう。
- ② 授業中に理解できないところは、その場で質問し、曖昧さを残さないようにしましょう。
- ③ 応用力をつけるには、基本的な内容がすべて定着してある必要があります。授業・日々課題で内容を完全に定着させ、学習到達度確認問題でその度合いを計ります。もし不十分なところがあったら、解消会や解消課題の提出で内容の定着を徹底します。

8 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
12	式と証明		・ 式の計算	・ 3次式の展開・因数分解 ・ 二項定理 ・ 多項式の除法・分数式 ・ 恒等式	16	学習到達度確認問題 日々課題 考査
1			・ 等式・不等式の証明	・ 等式・不等式の証明		
2	【後期期末考査】					
3	複素数と方程式 【単元テスト】		・ 複素数と2次関数の解 ・ 高次方程式	・ 複素数・解と係数の関係 ・ 剰余の定理・因数分解 ・ 高次方程式	16	学習到達度確認問題 日々課題 考査

計 32 時間 (55 分授業)

教科	数学・理数	科目	数学A・理数数学I	単位数	2単位	学年(科)	1学年 (国際文化科・情報科学科)
使用教科書	数研出版『NEXT 数学A』						
副教材等	数研出版『CONNECT 数学I+A』 数研出版『チャート式 解法と演習 数学I+A』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

2 学習目標

「場合の数と確率」「図形の性質」「数学と人間の活動」の3単元に取り組む中で、これらの基本的な概念を理解するとともに、事象を数学的に解釈、表現、処理する技能を身に付けられるようにする。

3 指導の重点

- ①授業において知識・技能を身に付けるとともに、事象を数学的にとらえ、考察・表現する意欲をもてるよう指導します。
- ②基本的な計算力や技能を身に付けられるように、毎日の授業中、計算練習に取り組みます。また、日々課題を設定し、確実な習得を目指します。
- ③学習到達度確認問題で基本的な計算力と技能、表現を習得しているかを確認し、生徒全員がこれらの力を身に付けることを徹底します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な計算能力、知識・技能、問題処理能力を身に付けている。	計算などにより得られたことから、数学的にどのようなことが考えられ、結論づけられるか論理的に思考・判断し、それらを正しく表現できている。	自分の考えを深めようと粘り強く活動している。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ 考査 ・ 学習到達度確認問題 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査 ・ 学習到達度確認問題 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 日々課題の提出 ・ 自主的に取り組んだ問題の提出 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

6 課題・提出物等

日々課題
長期休業課題

7 学習アドバイス

- ① 数学において、第一に計算能力が必要です。日々課題を通して計算力や思考力を上げる努力をしましょう。
- ② 授業中に理解できないところは、その場で質問し、曖昧さを残さないようにしましょう。
- ③ 応用力をつけるには、基本的な内容がすべて定着してある必要があります。授業・日々課題で内容を完全に定着させ、学習到達度確認問題でその度合いを計ります。もし不十分なところがあったら、解消会や解消課題の提出で内容の定着を徹底します。

8 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法																										
4	集合 場合の数		・ 集合 ・ 場合の数	・ 集合 ・ 順列 ・ 組み合わせ	2	学習到達度確認問題 日々課題 考査																										
5					12		6	確率 【前期中間考査】		・ 確率	・ 基本性質 ・ 独立な試行 ・ 条件付き確率 ・ 期待値 ・ 角の二等分線と辺の比 ・ 三角形の外心・内心・重心	18	学習到達度確認問題 日々課題 考査	7	20	8	図形の性質 【前期期末考査】	・ 平面図形	9	図形の性質 【後期中間考査】		・ 平面図形	・ チェバの定理 ・ メネラウスの定理 ・ 円に内接する四角形 ・ 円と直線 ・ 2つの円 ・ 作図 ・ 直線と平面 ・ 多面体	学習到達度確認問題 日々課題 考査	10	12	11	12	12	12	数学と人間の活動 【後期期末考査】	
6	確率 【前期中間考査】		・ 確率	・ 基本性質 ・ 独立な試行 ・ 条件付き確率 ・ 期待値 ・ 角の二等分線と辺の比 ・ 三角形の外心・内心・重心	18	学習到達度確認問題 日々課題 考査																										
7					20																											
8							図形の性質 【前期期末考査】	・ 平面図形																								
9	図形の性質 【後期中間考査】		・ 平面図形	・ チェバの定理 ・ メネラウスの定理 ・ 円に内接する四角形 ・ 円と直線 ・ 2つの円 ・ 作図 ・ 直線と平面 ・ 多面体	学習到達度確認問題 日々課題 考査																											
10						12																										
11							12																									
12	12	数学と人間の活動 【後期期末考査】		・ 約数と倍数 ・ 素数と素因数分解 ・ 最大公約数・最小公倍数 ・ 整数の割り算 ・ ユークリッドの互除法 ・ 1次不定方程式 ・ 記数法	学習到達度確認問題 日々課題 考査																											
1																																
2																																
3																																

計 64 時間 (55 分授業)

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	2	学年	1 学年
使用教科書	東京書籍『新編物理基礎』						
副教材等	数研出版『新課程リードLight ノート物理基礎』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

2 学習目標

<p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>① 身の回りの現象を物理的にとらえ、正しく考察し、説明できるようにする。</p> <p>② 問題演習を通して物理法則の扱い方を身につける。</p> <p>③ 実験を通して現象をどのようにとらえ、解析していけばよいかを身につける。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについての観察、実験などを行うことを通して、物体の運動と様々なエネルギーに関する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーを対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などを通して、現象を科学的に探究する方法を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーに対して主体的に関わり、それらの事物・現象に対する気付きから課題を設定し解決しようとしている。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、学習到達度確認問題 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、学習到達度確認問題 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点
「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。

6 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> 毎週の週末課題があります。 長期休業中の課題は別途指示します。
--

7 学習アドバイス

<p>物理は数少ない基本法則から、身の回りのさまざまな現象を説明し、また予測することができるパワフルな学問です。基本法則は数学を使った公式で表されているため、公式に文字や数値をあてはめればOK！という考えに陥りやすいと思います。しかし、重要なことはそういったことではなく、「公式を自分の言葉で説明できること」です。近年の入試問題もただ単に計算をするだけでなく「現象を正しく説明できること」が求められます。「答えが出ればOK！」ではなく「物理の考え方をより深く理解する」という姿勢で学習しましょう。</p>
--

8 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	物体の運動とエネルギー		運動の表し方	等速直線運動 加速度	6	学習到達度確認問題 提出物の確認
5				落下運動	5	学習到達度確認問題 前期中間考査

						提出物の確認
6			さまざまな力と そのはたらき	力のつりあい	6	学習到達度確認問題 提出物の確認
7				運動の法則	6	学習到達度確認問題 提出物の確認
9			力学的エネルギー	仕事 運動エネルギーと位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	6	学習到達度確認問題 提出物の確認
10	熱		熱とエネルギー	熱と温度 熱の利用	6	学習到達度確認問題 提出物の確認
11	波		波の性質	波と媒質の運動	6	学習到達度確認問題 提出物の確認 後期中間考査
12				波の重ね合わせ	6	学習到達度確認問題 提出物の確認
1			音	音の性質 共振・共鳴	6	学習到達度確認問題 提出物の確認
2	電気 物理学と		電気抵抗	電気の性質 電流と電気抵抗 電気とエネルギー	6	学習到達度確認問題 後期期末考査 提出物の確認
3	社会		磁気と交流	電流と磁場 交流と電磁波 エネルギー資源	5	学習到達度確認問題 提出物の確認

計64時間 (55分授業)

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2	学年（コース）	1学年
使用教科書	・数研出版『新編 生物基礎』						
副教材等	・数研出版『新課程リードα生物基礎』 ・浜島書店『二訂版ニューステージ生物図表』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜まず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

2 学習目標

<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>

3 指導の重点

<p>生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにするとともに、科学的に探究する力を養う。</p> <p>生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究している。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	第1章生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性 第2節 エネルギーと代謝	生物の特徴 (9時間)	教科書 副教材	・生物の多様性とその由来 ・進化と系統 ・細胞内構造 ・生体物質 ・ATP	5	学習到達度確認 問題 提出物の確認 中間考査
5	第2章遺伝子とのはたらき 第1節 遺伝情報とDNA	遺伝子とのはたらき (8時間)		・呼吸と燃焼の違い ・光合成のしくみ ・酵素のはたらき ・DNAの構造	6	
6	第2節遺伝情報の複製と分配 第3節遺伝情報の発現			細胞周期 DNA量の変化 タンパク質合成 細胞の分化	6	
7	第3章ヒトの体内環境の維持 第1節体内での情報伝達と調節	ヒトの体内環境の維持 (22時間)		神経系とホルモン系	6	
8	第2節体内環境の維持		自律神経系	4		

9	のしくみ			血糖濃度の調節 腎臓の構造とはたらき	6	
10	第3節免疫のはたらき			自然免疫 適応免疫 免疫と健康	6	学習到達度確認 問題 提出物の確認
11	第4章生物の多様性と生態系	生物の多様性と生態系 (25時間)		階層構造 光合成速度	6	中間考査
12	第1節植生と遷移			一次遷移と二次遷移	4	
1	第2節植生の分布とバイオーム			世界のバイオーム 日本のバイオーム	5	学習到達度確認 問題
2	第3節生態系と生物の多様性			栄養段階 物質収支	6	提出物の確認 期末考査
3	第4節生態系のバランスと保全			外来生物	4	

計64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

週末課題、長期休業課題、実験レポート、授業ノートやプリント、ワークシートの提出を課します。(別途指示します。)

8 担当者からの一言

①授業内での理解を目指しましょう。

授業の前にあらかじめ教科書を読み、分かりにくい部分や疑問点を探しましょう。授業でとるノートは、授業の内容を思い出し、定着させるためにとるものと認識してください。つまり、授業中に生じた疑問や解説も書くようにしましょう。多くの生物用語が出てきますが、その意味を理解し、適切に使えるようにしましょう。実際にいる身近な生き物や様々な生命現象を、学んだ知識と関連付けて理解するように学習しましょう。各種課題の作成においては、自ら関心をもって調べるなど、積極的に取り組みましょう。

②家庭学習は復習を中心に取り組みましょう。

家庭学習では、問題集を中心に、授業で取り組んだ内容を復習しましょう。授業で身につけた知識を定着させるように継続して取り組みましょう。また、応用問題にも取り組みながら、より深い理解と実践力をつけていきましょう。学習到達度確認問題や、定期考査で確認を行い、適宜、学習活動をリフレクションしながら学力向上に努めましょう。

③生物に関心を持ちましょう。

生物に関心を持つという観点から、授業では、現在行われている研究や最先端の生物学の話も展開する予定です。興味を持っている分野があったら、積極的に調べてみてください。(担当：川上)

教科	保健体育	科目	体育	単位数	2	学年（コース）	1学年（専門系）
使用教科書	大修館書店 『現代高等保健体育』						
副教材等							

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

2 学習目標

<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>①各種の運動をとおして運動技能の向上を図り、バランスのとれた身体の発達を促すとともに、公正・協力・責任などの態度を育てる。</p> <p>②運動する習慣を身に付け、基礎体力と柔軟性の向上を目指す。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・各種目における記録測定 ・各種目における技能テスト ・体育理論の考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の、活動内容をよく理解して自分なりに考えながら練習している ・グループ活動などの際に、仲間と協力しながら最も合理的な練習方法を考えて行動している。 ・その日の活動内容に沿った適切な服装をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の技能と体力の中で精一杯取り組んでいる。 ・準備運動や、用具の準備・片付けなどに積極的に取り組んでいる。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	学校体操	体づくり運動	学校体操	学校体操を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わう。	7	学校体操のテスト
5	持久走		持久走	約5kmを走りきれ体力をつけ、計測を行う	8	持久走の練習とタム計測
6	マット運動	器械体操 陸上競技	マット運動 短距離走	・1クラスがマット運動を行い、1クラスが陸上競技（短距離走）を行う。6時間で交替する。	6	マット運動の練習および技能テスト

7 8	01 スポーツの始まりと変遷 02 文化としてのスポーツ 03 オリンピックとパラリンピック 04 スポーツが経済に及ぼす効果 05 ドーピング 06 スポーツと環境	体育理論	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を用いながら、スポーツの始まりやオリンピックの意義を学ぶ ・スポーツが社会経済に与えている影響や、そこから生じる商業主義によるドーピング問題について理解する。 ・スポーツと環境も密接な関わりがあり、現在は環境に配慮したスポーツが求められていることを学ぶ 	6	前期期末考査 授業ノート
9 10	柔道	武道	柔道	<ul style="list-style-type: none"> ・各種受け身、基本的な立ち技、寝技を学習する 	8	授業の取り組み 技能テスト
11 12	バレーボール	屋内球技 ネット型	バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> パス、サーブ、レシーブ、スパイク 集団技能 	10	授業の取り組み 技能テスト
1 2	バスケットボール	屋内球技 ゴール型	バスケットボール	<ul style="list-style-type: none"> ドリブル・パス・シュート・集団技能 	10	授業の取り組み 技能テスト
3	バドミントン 卓球	屋内球技 ネット型	バドミントン 卓球	<ul style="list-style-type: none"> ドライブ・ハイクリアー・サーブ スマッシュ フォアハンドドライブ バックハンドドライブ サーブ・ツッツキ 	5	授業の取り組み 技能テスト

単元、教材が変更になることもある

計66時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

・体育理論の授業ノートまたは授業プリント

8 担当者からの一言

- ①自分自身の健康や体力に関心を持とう。
- ②各領域の運動特性を理解しよう。
- ③生涯にわたってスポーツを主体的に実践していく態度と方法を身に付けよう。(担当：安達 真也)

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1	学年（コース）	1 学年（専門系）
使用教科書		大修館書店	『現代高等保健体育』				
副教材等		大修館書店	『図説現代高等保健』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

2 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

3 指導の重点

- ①健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるという「ヘルスプロモーション」の考え方を学ぶ。
- ②ヘルスプロモーションの考え方を生かし、健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択および健康的な社会環境づくりなどの重要性について理解を深める。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養うなどしている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 定期考査での点数 授業中の発問に対する返答などから評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの「課題のレポート」提出 「課題研究発表」を聞いた上で、自分で作成するレポート提出などから評価します 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言や態度 授業中にとったノートを年に数回提出させるなどから評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	現代社会と健康	3	01 健康の考え方 02 私たちの健康の姿 04 がんの原因と予防	<ul style="list-style-type: none"> WHOの健康の定義 健康の成り立ちに関わる要因としてどのようなものがあるか。 健康指標とはどのようなことを言うか。 わが国の平均寿命の伸びはどのような理由によるものか。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 授業へのとりくみ 発問に対する返答 授業のノート 前期期末考査
5	現代社会と健康	3	05 がんの治療と回復 06 運動と健康 08 休養・睡眠と健康	<ul style="list-style-type: none"> わが国では平均寿命は延びたが、生活習慣病になる人が増加している。その原因と対策を学ぶ。 がんについての基本的な知識を学ぶ。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 授業へのとりくみ 発問に対する返答 授業のノート
6	現代社会と健康	4	12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが精神疾患になる可能性があることと、主な精神疾患の種類を学ぶ。 精神疾患の予防と、早期発見・早期治療について学ぶ。 精神疾患からの回復には本人の努力以外にも周囲の支えが大切であることを学ぶ。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 前期期末考査

7	安全な社会生活 現代社会と健康	3	06 心肺蘇生法 03 生活習慣病 07 食事と健康 09 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 15、16 感染症 17 性感染症	新潟PUDHプロジェクト受講 【以下の課題研究の7つの班分け】 ①生活習慣病 ②食事と健康 ③喫煙と健康 ④飲酒と健康 ⑤薬物乱用と健康 ⑥感染症 ⑦性感染症 班分け終了後、研究の開始	3	
8	現代社会と健康	1	03 生活習慣病 07 食事と健康 09 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康	各自で①～⑦のテーマから一つを選び、教科書にある内容をさらに深掘りする形で、夏休みに課題研究を行い、レポートを作成して提出する。	1	提出されたレポートの内容で評価を行う
9 10	現代社会と健康	7	15、16 感染症 17 性感染症	・この7つのテーマの班ごとに、自分たちが研究した内容を、タブレットを用いてクラスで発表する。発表を聞くメンバーは内容をメモを取りながら聞き、発表内容を要約して提出する。	7	・各班ごとの発表が充実した内容であるかどうか。 ・提出された要約レポートを用いて評価する
11 12	現代社会と健康	5	18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境作り	・ヘルスプロモーションの考え方に基つき、本人の努力以外にも社会の取り組みや、教育も大切であることを理解させる。	5	・授業中の態度 ・後期期末考査 ・授業ノート の提出
1 2	安全な社会生活	5	01 事故の現状と発生要因 02 安全な社会の形成 03 交通社会における安全 04 応急手当の意義とその基本 05 日常的な応急手当	・不慮の事故はどのような時に発生しているか、また、年代別にはどのような事故が多いのかを理解し、その防止に努める。 ・自助・共助・公助によって自分だけでなく身の回りの安全も守られる事を理解する。 ・交通事故が発生した際の3つの責任について理解する。 ・日常的な応急手当の正しい方法を学ぶ	5	

3			06 心肺蘇生法	・7月に行った新潟 PUSH の受講による知識が更に深まるように理論付けする。	1	
---	--	--	----------	---	---	--

計 3 2 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・課題研究レポート
- ・課題研究発表の要約や意見をまとめた発表の記録
- ・授業ノート その他、適宜指示があります。

8 担当者からの一言

- ①自分自身の生活習慣を振り返り，身近な課題として現代の健康問題を捉えよう。
 - ②個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどの重要性を理解しよう。
- (担当：安達 真也)

教科	芸術	科目	音楽Ⅰ	単位数	2	学年（コース）	1学年
使用教科書	教育芸術社『高校生の音楽Ⅰ』						
副教材等	教育芸術社『音楽の鑑賞教材と基礎学習』、『キミウタ（混声合唱曲集）』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

2 学習目標

<p>音楽の良さ、楽しさを感じ、表現法を学び、感性を働かせて他者との協働を学び、音楽文化についての理解を深める態度を育てる。</p>
--

3 指導の重点

<p>歌唱・器楽・創作・鑑賞を軸に表現法を高めることを目指します。更に音楽の文化的歴史的背景の関わりを学び、理解する感性を育てます。その他に生涯に渡る音楽文化についての関わりを構築して行きます。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・曲想・音楽の構造や文化的、歴史的背景の関わりや音楽の多様性について理解している。</p> <p>・創意工夫を生かす表現ができるようにしている。</p>	<p>音楽を評価しながら良さや美しさを味わいながら聴いたり、表現を体現しようとしている。</p>	<p>主体的、協同的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各時間に実技指導中での取り組みを評価します。	・実技 ・鑑賞についての記述から評価します。	・授業態度 ・練習への取り組みを記述した提出物を総合的に評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業 時数 と領 域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	歌唱 器楽		教科書 副教材 (2冊)	正しい発声を学ぶ 各自の選択を決める	2	授業内での実 技指導 レポート提出
5	歌唱 器楽 鑑賞		教科書 副教材 (2冊)	合唱曲パート分け 合奏曲楽器分け 音楽史からバロック	3	授業内での実 技指導 レポート提出
6	歌唱 器楽 鑑賞		教科書 副教材 (2冊)	外国語歌曲（伊、独） 個人選択練習 音楽史から古典派	4	授業内での実 技指導 レポート提出
7	歌唱 器楽 鑑賞		教科書 副教材 (2冊)	混声四部合唱 楽曲についての途中発表 ミュージカル鑑賞	4	授業内での実 技指導 レポート提出
8	歌唱 器楽 鑑賞		教科書 副教材 (2冊)	文化部発表会に向けて練習、 制作	1	授業内での実 技指導 レポート提出
9	歌唱 器楽		教科書 副教材 (2冊)	文化部発表会に向けて練習と ステージング 音楽史のまとめ	4	授業内での実 技指導 レポート提出
10	歌唱 器楽		教科書 副教材 (2冊)	文化部発表会の制作発表	4	授業内での実 技指導 レポート提出

11	歌唱 器楽 鑑賞		教科書 副教材 (2冊)	合唱、独唱、オルゴール制作 世界の民族音楽 I	4	授業内での実 技指導 レポート提出
12	歌唱 器楽 鑑賞		教科書 副教材 (2冊)	祝実曲 ラテン音楽合奏 ドキュメンタリー鑑賞	3	授業内での実 技指導 レポート提出
1	歌唱 器楽 鑑賞		教科書 副教材 (2冊)	混声三部合唱 個人選択曲 世界の民族音楽 2	3	授業内での実 技指導 レポート提出
2	歌唱 器楽 鑑賞		教科書 副教材 (2冊)	ミニコンサートに向けて 総仕上げ オペラ、バレエ作品	4	授業内での実 技指導 レポート提出
3	歌唱 器楽		教科書 副教材 (2冊)	各自音楽テーマを決めて、 リサーチして発表する	4	授業内での実 技指導 レポート提出

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

授授業内で全て課題に取り組み記録する。
センテンス終了時に記録ノート・鑑賞の記録を提出する。

8 担当者からの一言

毎時間の取り組みをして鑑賞についても記録していきます。授業内で完結して行きます。

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2	学年（コース）	1 学年
使用教科書	日本文教出版『高校生の美術1』						
副教材等	なし						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

2 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方、考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の美術や芸術文化と幅広く関わる資質、能力を育成することを目指す。美術作品などに関する鑑賞とともに、美術の働きや美術文化に関して理解を深める。生涯にわたり美術を愛好する心情や豊かな感性を育む。

3 指導の重点

- ① 本校の位置する美しい自然や地域の文化財、文化施設を活用しながら美術の幅広い創作活動を行う。
 - ② 絵画、彫刻、デザイン、建築、映像メディア表現を学習する。また、美術史を学び、理解を深める。
 - ③ 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、創造的に表すことを目指す。
 - ④ 造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることを目指す。
- 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を創意工夫、表している。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関り主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、作品を通して心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、見方や感じ方を深め、表現や鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。課題の内容、提出状況、授業の取り組みなどから、総合的に評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	オリエンテーション	2	「美術とは何か」	高校生の美術の学習イメージを持ち、美術の学びの意味や広がりについて考える。	2	レポート 確認
	見る 感じ取る 考える 表す	2	「身近な物を描く」	身近なものの特徴や美しさなどを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練ったり、鑑賞したりする。	2	作品確認
5	人物画、静物画、風景画他の表現方法	2	「視点と表し方」 絵画の魅力を考える	複数の視点から見た画面を組み合わせた作品の表現の意図や工夫について考え、鑑賞する。	2	取り組み
	「自己や他者の内面に触れて」	4	「人物を描く」	自己の内面を見つめ、構図や表情などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、構図や表情、色彩の効果、全体のイメージなどを捉える。生命観の感じられる生き生きとした描写を目指す。	4	作品確認
6 7	静物画の魅力 様々な技法	16	「静物画」 作品制作 色彩学	牛頭骨、植物、器物、果物、楽器、布他、モチーフを構成し、静物画における主題や構図について理解を促す。 観察の幅を広げ美の所在発見への認識を深める。 多様な表現方法の工夫をする。 水彩画、洋画、日本画、アクリル画等の絵の具の技法を学ぶ。 ○グレース技法 ○ウェット・イン・ウェット技法 ○ウェット・オーバー・ドライ技法	16	作品提出 確認

8	「世界の至宝」探求	2	世界の美術館 博物館の鑑賞	ルーブル美術館、オルセー美術館他をBDで作品鑑賞する。世界の芸術文化を探求し理解を深める。	2	発表の様子
9	「作家と作品」研究	6	世界の巨匠達の作品鑑賞	作家と作品、その時代背景を考察する。美術の働きや芸術の動向などグループで意見をまとめ全体ディスカッションを試みる。 民族、国家、宗教の壁を越え、互いの芸術、文化を尊重する精神を育成する。	6	発表の様子
10 11	世界の芸術文化と歴史	16	世界遺産の探求	世界の芸術文化を学び日本、諸外国の文化、伝統を考察し豊かな心を養い創作する。 世界の美術史年表を学び理解を深める。 多分野にわたり様々な芸術を総合的に捉える。 総合芸術の社会での役割、国際間の文化交流を理解する。	16	作品提出 確認
12	日本の美術の特質	4	日本の美術 日本の美学	日本の美術、彫刻、建築の表現の特質を探求する。美術文化の継承と創造について考える。 日本の美術の独自の屏風や掛け軸、絵巻などの良さや美しさ、金雲や空間、構図、色彩などの効果、全体のイメージや作風、様式を捉え美意識や自然観、制作の知恵などを理解する。	4	理解度
1	デザインの世界の広がり デザインと人間工学	4	「色彩、美の秩序、文字の基本」	環境問題に対する注意喚起を目的としたポスターを構想、表現するために、色彩、造形の秩序、構成の要素、構図、文字の基本などについて学ぶ。 テーマに沿って問題提起→企画→演出を促す。比率（黄金比、フィボナッチの数列、ベルの数列など）の利用を理解する。 人間の知性と感性に響き合うウィットに富んだ制作を目指す。	4	課題確認
2	映像メディア表現	4	「映像に包まれて」	映像表現の特質や表現効果、投影の工夫などを感じ取り、創造的な工夫について考えるとともに、光や動きを生かした映像の効果、美しさや全体のイメージなどを捉える。	4	取り組み
3	オリエンテーション	2	これからの私と美術	生活と美術の関わりに目を向け、これからの生活の中で、美術を通して学んだことをどのように生かすことができるのか考える。	2	発表の様子

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・課題作品を提出する。
- ・授業内での課題の取り組みを記録する。
- ・鑑賞の記録を提出する。

8 担当者からの一言

美術を通して取り組む表現と鑑賞の創造活動は、人間らしい感動や生き方を認識していくことにつながります。寛容と理解力を持って、広く芸術・文化を学び、優れた感性を身につけていくことが大切です。

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2	学年（コース）	1 学年
使用教科書	教育図書『書 I』						
副教材等	なし						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

2 学習目標

<p>(1) 伝統芸術としての書文化の意味や価値を考え、書の良さや美しさを感じて表現の工夫をしていくようにする。</p> <p>(2) 書の特徴を理解させ、基本的な技能、知識を身につけ、芸術としての書作品を制作できるようにする。</p> <p>(3) 古典や現代書の作品を鑑賞し、書に興味を持ち愛好する心を養うようにする。</p>

3 指導の重点

<p>(1) 古典の書風や変遷を学び、色々な特徴があることを理解させ、書の表現の方法や形式とその多様性を考えるようにする。</p> <p>(2) 古典の用筆、運筆、字形や全体の構成を見て、技術や感覚的なものを学び、応用力や想像力を身につけ、表現できるようにする。</p> <p>(3) 古典の書と現代書を比較し、それぞれの良さを理解させ、鑑賞力を身につけるようにする。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>書写教育と芸術書道の違いを理解し、芸術としての書の知識や効果的な表現をする為の基本的な技能を身につけるようにしている。</p>	<p>書の古典の良さや美しさを感じ、臨書という基本練習から、用筆、運筆、字形を学び身につけて、自己表現をする為の構想や表現を工夫している。</p>	<p>書が他の芸術のようにグローバルな芸術となれるように、社会との関わりを考え、積極的に書の表現や鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</p>

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・制作作品の古典の特徴の理解度と内容	・制作作品の表現や紙面構成の達成度とその内容	・課題の観察や集中して取り組んでいるか ・制作作品の内容

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	書写教育から芸術書道へ	(B鑑賞)	・九成宮禮泉銘 ・孔子廟堂碑	・年間学習計画と文房四宝 ・芸術書道への取り組み	1	授業の取組
	漢字・楷書 (書唐の三大家) の書	(共通事項)	・顔氏家廟碑 ・雁塔聖教序	・古典の臨書でその特徴を捉え、用筆、運筆の技法を習得する。又、字形や線質の違いを捉え、観察力を身につける	8	制作作品の内容と完成度
	磨崖と龍門石窟の書	(表現)	・牛欄造像記 ・鄭文公下碑		4	制作作品の内容と完成度
5	楷書の倣書と創作	(A表現)	2字句の倣書と創作作品	・これまで学習してきた古典の特徴を活かし、表現を考え工夫して制作する	4	制作作品の内容と完成度 授業の取組
	漢字・行書	(共通事項)	蘭亭序	・蘭亭序とその筆者について ・楷書と行書を比較し違いを理解し、用筆、運筆の技法を習得する	8	作品内容 授業の取組
6	漢字仮名交じりの書 漢字の創作	(表現)	自選句、又は自作の詩 漢字2字句創作	・詩文の文字の布置や漢字とひらがな字形を考えて表現する	4	作品内容 授業の取組
	漢字・隸書	(共通事項)	曹全碑	・隸書の変遷と字形の変化を理解する ・基本点画と特徴を捉え、用筆法を習得する	6	作品内容 授業の取組
7	篆刻	(共通事項)	姓名印の制作	・印の種類を知り篆刻に必要な用具と使用方法を理解する ・文字配置を考え姓名印を刻す	8	制作作品の内容 授業の取組
	仮名の書	(共通事項)	仮名の基本 蓬萊切 高野切第三種	・仮名の成立について ・仮名の基本的知識を理解する ・古筆の雰囲気や鑑賞し用筆や	8	作品内容 授業の取組
8						
9						
10						
11						
12						

1				運筆に集中し仮名独特の連綿の美しさを習得する		
2	漢字・行書	(B鑑賞)	平安の三筆の書	・日本人の書、特に平安初期の作品の鑑賞	1	授業の取組
3	漢字・行書	(表現)	風信帖	・筆者について ・字形、線質の特徴を捉え、用筆、運筆の技法を習得する	8	制作作品の内容 授業の取組
	天平写経	(表現)	隅寺心経	・心経の字数、行数、名前の入れ方を理解し表現する	4	授業の集中度 作品内容

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・毎週課題作品の提出
- ・篆刻の場合は完成した段階で印箋紙に押印して提出

8 担当者からの一言

古典の臨書から書の表現や技術的なことを学び、作品の鑑賞力を身につけるようにする。また、基本的な練習だけで終わらず学んだことと自分の想像力、創作力と絡み合わせて、古典に立脚した個性的な作品を制作していくことが大事である。

教科	情報	科目	情報Ⅰ	単位数	2	学年（コース）	1学年
使用教科書	実教出版 『最新情報Ⅰ』						
副教材等	実教出版 『最新情報Ⅰ 学習ノート』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

2 学習目標

<p>情報に関する科学的な見方・考え方を学び、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。</p> <p>(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>① 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得します。</p> <p>② 情報社会と人との関わりについて理解を深め、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養います。</p> <p>③ 学んだ情報技術を適切に活用し、情報社会に主体的かつ積極的に関わる態度を養います。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識を理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し自ら評価し改善しようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・レポートや提出課題の内容及び提出状況 ・実習における実技課題の内容、提出状況 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・レポートや提出課題の内容及び提出状況 ・プレゼンテーションなどの実習における 発表や相互評価などの取り組み などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・レポートや提出課題の内容及び提出状況 ・実習における実技課題の内容や提出状況 ・授業内での取り組み状況 などから評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	第1章 情報社会と私たち 1節 情報社会	(10時間)	タ化°ソグソフ 教科書 学習ノート 文書作成ソ フトウェア	・ガイダンス（タイピングと文字入力） ・情報モラルと情報化が個人に及ぼ す影響について理解する ・知的財産権について理解する ・文書作成ソフトウェアを利用して 文書を作成する ・個人情報の保護と管理について理 解する	4	レポート ワークシー ト
5	2節 情報社会の 法規と権利 3節 情報技術が 築く新しい社会				6	
6	第2章 メディアとデザ イン 1節 デザインと コミュニケーション				12	
7	2節 情報デザイン 3節 情報デザイン の実践					
8	第3章 システムとデジタル化 1節 情報システムの 構成	(10時間)	教科書 学習ノート プレゼンテ ーションソ フトウェア	・アナログ°とデジタルのの違いについて理解 する ・コンピュータの仕組みを理解する ・コンピュータが行う数値の計算方法につ いて理解する ・音声や静止画、動画をデジタルで表現 する方法について理解する		10
9	2節 情報のデジ タル化					

10 11	第4章 ネットワークとセキュリティ 1節 情報通信ネットワーク 2節 情報セキュリティ	(14時間)	教科書 学習ノート	・情報通信ネットワークの仕組みについて理解する ・情報セキュリティを確保する方法と技術について理解する	14	レポート ワークシート
12 1	第5章 問題解決とその方法 1節 問題解決 2節 データの活用 3節 モデル化 4節 シミュレーション	(10時間)	教科書 学習ノート	・問題解決の手段について理解する ・スプレッドシート(表計算)の活用方法について理解する ・データ分析の手法について理解する ・問題解決のためにシミュレーションを活用する	10	レポート ワークシート
2 3	第6章 アルゴリズムとプログラミング 1節 プログラミングの方法 2節 プログラミングの実践	(8時間)	教科書 学習ノート Python	・アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する ・変数や関数を使用したプログラムを作成する	8	レポート ワークシート プログラム作品

計64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

・文書作成、プレゼンテーション実習、プログラム作品の作成、データの分析など、單元ごとに出される実習・レポート課題や作品を提出する。

8 担当者からの一言

- ①授業内の実習の時間を大切に、レポートや課題をしっかりと提出しよう。
- ②機器やアプリケーションの操作などで困った場合は、積極的に質問しよう。
- ③情報の理論の理解と実技の実習をバランスよく行おう。(担当：志賀)

教科	英語	科目	総合英語 I	単位数	4単位	学年（コース）	1学年
使用教科書	桐原書店『Heartening English Communication I』						
副教材等	桐原書店『Heartening English Communication I Workbook』、東京書籍『フェイバリット英単語・熟語<テーマ別>コーパス 3000 4 th Edition』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜まず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p> <p>(3) 英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

日常的な話題や社会的な話題について、次のことができるようになることを目指します。

- ① 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすること。
- ② 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすること。
- ③ 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うこと。
- ④ 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えること。
- ⑤ 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えること。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・ワークシート、提出物 ・振り返りシート ・授業中の活動への取組状況 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・ワークシート、提出物 ・振り返りシート ・授業中の活動への取組状況 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・ワークシート、提出物 ・振り返りシート ・授業中の活動への取組状況 などから評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	Lesson 1 Bringing Out the Best in Himself		題材：スポーツ 形式：物語文 インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューを聞き取る ・記事を読み、概要を理解する ・インタビュー ・インタビュー記事を書く 	12	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・パフォーマンステスト ・定期考査

5	Lesson 2 Hold On, Anzu!		題材: 動物 形式: 物語文 プレゼンテーション	・ニュースの感想を聞き取る ・レポートを読み、概要を理解する ・プレゼンテーション ・プレゼンテーションの原稿を書く	1 3	・授業中の活動 への取組状況 ・提出物 ・振り返りシート
6	Lesson 3 We Can Make a Difference		題材: 環境 形式: 説明文・意見文 ディスカッション	・意見を聞き取る ・投稿文を読み、概要を理解する ・ディスカッション ・意見文を書く	1 3	
7 8	Lesson 4 Creative Problem Solving		題材: 心理学 形式: 論証文 ディスカッション	・会話を聞き取る ・論証文を読み、概要を理解する ・ディスカッション ・質問文を考えて書く	1 3	・小テスト ・パフォーマンス テスト ・定期考査
9	Lesson 5 Canned Bread to Feed the World		題材: 食糧問題 形式: 物語文 ロールプレイ	・会話を聞き取る ・記事を読み、概要を理解する ・ロールプレイ ・プロジェクト参加を勧めるメッセージを書く	1 3	・授業中の活動 への取組状況 ・提出物 ・振り返りシート
10	Lesson 6 Could We Have a Real Jurassic Park?		題材: 科学・生物 形式: 説明文 ディスカッション	・会話を聞き取る ・講義を読み、概要を理解する ・ディスカッション ・パラグラフを書く	1 3	・小テスト ・パフォーマンス テスト ・定期考査
11	Lesson 7 Behind the Price Tag		題材: 経済 形式: 説明文・意見文 ミニディベート	・ミニディベートを聞き取る ・講演を読み、概要を理解する ・ミニディベート ・パラグラフを書く	1 3	・授業中の活動 への取組状況 ・提出物 ・振り返りシート
12	Lesson 8 The World's Winter Festivals		題材: 文化 形式: 説明文 インタビュー	・会話を聞き取る ・本を読み、概要を理解する ・インタビュー ・申込用紙に必要事項を記入する	1 3	・小テスト ・パフォーマンス テスト ・定期考査
1	Lesson 9 Talking Trees		題材: 生物・科学 形式: 説明文 ディスカッション	・展示の感想を聞き取る ・展示を読み、概要を理解する ・ディスカッション ・展示の感想を書く	1 3	・授業中の活動 への取組状況 ・提出物 ・振り返りシート
2 3	Lesson 10 Capturing the Reality of the World		題材: 生き方 形式: 物語文 インタビュー	・インタビューを聞き取る ・記事を読み、概要を理解する ・インタビュー ・紹介記事を書く	1 2	

計 128 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・毎週学習内容に関する小テストがあります。
- ・週末課題や長期休業中の課題は別途指示します。
- ・考查毎にパフォーマンステストを実施します。
- ・考查毎に振り返りシートを記入し、提出することになります。

8 担当者からの一言

たくさんのインプット、そして積極的にアウトプットすることが言語習得の鍵です。クラスメイトとたくさんコミュニケーションを取りながら、英語で考え表現する力をつけていきましょう。

教科	英語	科目	ディベート・ディスカッション I	単位数	2単位	学年（コース）	1学年
使用教科書	啓林館『Vision Quest English Logic and Expression I Advanced』						
副教材等	啓林館『Vision Quest 論理・表現 I Advanced WORKBOOK』 啓林館『Vision Quest 総合英語 Ultimate 2nd Edition』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

2 学習目標

英語学習の特質を踏まえ、三つの領域（話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くこと）の言語活動を通して、外国語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力を一体的に育成することを目指す。

3 指導の重点

<p>日常的な話題や社会的な話題について、次のことができるようになることを目指します。</p> <p>① ある論題について、多様な語句や文を用いて、賛成または反対の立場を取った上で、論理的に一貫性のある議論を展開すること。</p> <p>② 発表やディベートなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝え合うこと。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・目的や場面、状況などに応じた論理の構成や展開を理解し身につけている。</p> <p>・情報や考えなどを効果的に伝える表現を理解し身につけている。</p>	<p>情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現したり、伝え合ったりすることができる。</p>	<p>自分の意見を相手によりよく理解してもらるように、論理の構成や展開を工夫して表現し、伝えようとしている。</p>

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ワークシートや提出物 ・授業中の活動への取組状況 ・振り返りシート ・パフォーマンステスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ワークシートや提出物 ・授業中の活動への取組状況 ・振り返りシート ・パフォーマンステスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ワークシートや提出物 ・授業中の活動への取組状況 ・振り返りシート ・パフォーマンステスト などから、評価します。

内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	Lesson1 I want to introduce my new friend.		紹介 文の種類	・応答する ・理由を述べる ・クラブ活動をクラスに紹介する	4	・授業中の活動への取組状況 ・定期考査
5	Lesson2 How about joining our group?		学校生活 文型と動詞	・賛成・反対する ・聞き直す ・文化祭についてパートナー話し合う	4	・小テスト ・振り返りシート 等
6	Lesson3 I'm planning a day trip this weekend.		旅行・観光 時制	・激励する・励ます ・計画する・予定する ・旅行の経験をクラスに話す	4	
	パフォーマンステスト			英作文	2	・パフォーマンステスト
7 8	Lesson4 Have you ever tried it before?		趣味・関心 完了形	・経験を尋ねる ・初めての経験を述べる ・スポーツや音楽の経験をパートナーに伝える	5	・授業中の活動への取組状況 ・定期考査
	Lesson5 What do you want to do after high school?		将来・進路 助動詞	・許可を求める・依頼する ・義務・必要を表す ・回想する・自省する ・パートナーに将来の夢を語る	5	・小テスト ・振り返りシート 等
9	Lesson6 Did you hear about the new shop?		日常生活 受動態	・原因・影響を表す ・喜び・驚きを表す ・AREA 型スピーチ原稿	4	
	パフォーマンステスト			スピーチ	2	・パフォーマンステスト
10	Lesson7 I'm happy to have you with us.		交流・交際 不定詞	・感謝する ・謝罪する ・弁解する ・贈り物の詳細をパートナーに話す	5	・授業中の活動への取組状況 ・定期考査 ・小テスト

11	Lesson8 What sport do you like playing?		スポーツ・健康 動名詞	・誘う・申し出る ・推薦する ・スポーツをすることの利点について発表する	5	・振り返りシート 等
	パフォーマンステスト			プレゼンテーション	2	・パフォーマンス テスト
12	Lesson9 Digital media has come a long way.		メディア・コミュニケーション 分詞	・描写する ・判断の根拠を述べる ・自分自身や性格について発表する	5	・授業中の活動への 取組状況 ・定期考査
1 2 3	Lesson10 That's why I decided to go back.		文化・異文化理解 関係詞	・定義する ・言い換える ・経緯を説明する ・日本の文化や日本人たちについて発表する	5	・小テスト ・振り返りシート 等
	Lesson11 Which do you prefer, cheaper beans or more expensive ones?		国際問題 比較	・提案する ・賞賛する ・国際問題について自分の考えを示す	5	
	Lesson12 If I were you, I'd see it as a positive.		社会問題 仮定法	・助言を求める・助言する ・願望を表す ・日本の社会問題についてクラスに自分の意見を示す	5	
	パフォーマンステスト			ディスカッション	2	・パフォーマンス テスト

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・週末課題や長期休業中の課題は別途指示します。
- ・考査毎に振り返りシートを記入し、提出してもらいます。
- ・考査毎にパフォーマンステストを実施します。

8 担当者からの一言

情報を正しく読み取り、論理的に伝えるための英語の表現を学びます。間違いを恐れず、積極的に活動し、振り返りをしっかりと行い、知識の定着をはかりましょう。